

高温年における小麦「さとのそら」の播種量と収量

福島県農業総合センター 浜地域研究所

1 部門名

普通畑作物—小麦—作型・栽培型

2 担当者名

南隼人、吉川学

3 要旨

日本めん用小麦品種「さとのそら」は、播種時期が早いと茎数が過剰となり、収量や品質の低下が懸念されることから、10月下旬播種における最適な播種量について調査した。2023年の浜通り地方では小麦の生育期間の気温が平年よりも高く推移したため、播種量を慣行0.8kg/aより半分に減らした0.4kg/aにおいても同等の収量・品質が確保された。

- (1) 2023年における小麦の生育期間の平均気温は平年よりも1.7℃高く推移した(図1)。
- (2) 播種量0.4kg/aの苗立数は少ないが、分けつ発生が旺盛となったため、成熟期の穂数が確保され、0.8kg/aと同等の収量であった(表1)。
- (3) 本試験は、福島県農業総合センター浜地域研究所(相馬市)で実施したものである。

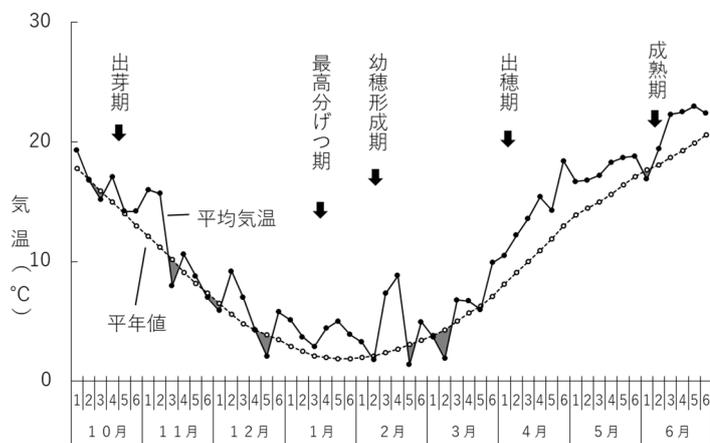


図1 調査期間中の平均気温 (2023~2024年アメダス相馬)
※平年値は1999~2020年の30カ年の平均値

表1 小麦「さとのそら」の生育および収量 (2024年産)

播種量 (kg/a)	苗立数 (本/m ²)	の最高分けつ期 (本/m ²)	穂数 (本/m ²)	一穂粒数 (粒/穂)	収量 (kg/a)	同等左比 (%)	等級 (1~7)
0.4	73	1,283	655	32.7	85.2	105	2.0
0.6	125	1,585	670	32.1	83.5	102	2.0
0.8	173	1,797	676	30.9	81.4	(100)	2.0

注1) 福島県農業総合センター浜地域研究所(相馬市)で実施

注2) 施肥体系は、基肥N:P₂O₅:K₂O=0.4:1.0:1.0(kg/a)、追肥N=1.0(kg/a)(2024年2月29日)

*1 収量は篩目2.0mm、水分12.5%換算の重量

*2 等級は農産物検査機関による7段階評価

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3~7年度
- (2) 研究課題名 浜通りにおける大規模水田利用支援技術の開発

5 主な参考文献・資料

- (1) 遠藤ら, 茨城県県央地域における小麦「さとのそら」の早播き後施肥栽培技術, 日本作物学会関東支部報, 29巻, p.42-43, 2014.